（別紙4）　　平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4372801037		
法人名	社会福祉法人　嘉悠会		
事業所名	グループホーム　康寿苑		
所在地	熊本県上益城郡　嘉島町上六嘉　2268番地		
自己評価作成日	平成29年2月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	平成29年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・当事業所は手足の守り神である「足手荒神さん」のすぐ隣に位置し、小学校や住宅地の中、田園風景の広がる自然豊かな環境の中にあります。H28熊本地震に於いては、神社は全壊、近隣の住宅も大きな被害を受けましたが、当事業所は建物被害はありませんでした。そんな中でも地震時は近隣の方々には、すぐに駆けつけて頂き、マンツーマンで車椅子を押して全員無事に避難することができました。大変感謝しています。
・また小規模多機能「かしまスマイル」との併設で、顔見知りの利用者間の交流や、合同行事を行っています。同敷地内には地域の縁側「どぎゃんね」があり、サロン、フラダンス、習字教室、コーラス等、地域の方にに利用されています。職員は、日頃からﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動や、サロン、老人会例会への参加を積極的に行い、地域の方々とのコミュニケーションを大切にしています。「困った時、頼りになる事業所」を目標に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームは母体医療機関の跡地に、同じ地域密着型事業所として小規模多機能型ホームと共に開所されている。建物内は玄関から入りそれぞれのホームが左右に設けられ、長い中廊下を双方の利用者が自由に行き来しながら、生活リハビリにも活用されている。天気の良い日には庭に置かれた手作りのテーブル周辺がリビングとなり、お茶を囲みながら入居者と職員の笑い声が、自然の中に日々繰り返せる光景となっている。ホームはまさしく地域の中にあり、民家や小学校、地元に知られる有名な神社に囲まれ、地域の恩恵や人々の熱い支援に支えら運営している。昨年の熊本地震の際は、母体への移動に近隣住民が駆けつけ、社協や同業者によるボランティア派遣や、物資の提供などを受けあらためて地域との繋がりを認識した1年であったようだ。地域の縁側"どぎゃんね"には、様々な催しに子どもから高齢者までが日常的に訪れ、利用度はしっかり定着しており、地域貢献の一役を担っている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフで考えた理念を掲げ、毎月のミーティングで振り返り、意識の統一を図っている。毎朝の申し送り時に「理念と行動指針」の唱和を行い、真意を考えながら、気持ちを引き締めている。	5項目からなる理念は開設時の職員の思いが込められ、現在に至っている。日々の唱和や毎月のミーティングでの振り返りを通じ、個々の職員がしっかりと入居者との関わり方を認識し、"今を大切に"を合言葉に支援にあたっている。	ホーム内に理念を掲示し来訪者への啓発としているが、年度初めの運営推進会議等で、具体的に紹介をすることで地域への情報発信に繋げていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱや清掃活動に参加している。又、敷地内にある交流施設（えんがわ）では地震後も地域サロンが開催され、利用者と一緒に参加した。他にも地域の方に開放し、交流が行われている。	広大な敷地には季節の花や果実が実り、入居者の目を楽しませ、庭にセッティングされた手作りのテーブルには、地域の人々も集まっている。隣接する馴染みの神社への散歩、近隣小学校での衛生行事（フッ素うがい）への参加、敷地内にある地域の縁側『どぎゃんね』に訪れる人々との交流など地域に密着した運営を実践している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃の実践を活かし、認知症の知識、対応、介護施設の種類、等を老人会例会へ講師依頼があり出向いて行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月、第4金曜午後、を原則に行う。メンバーは地域包括、社協、老人会長、民生委員、家族会会長、副会長、入居者代表＋事業所、となっており率直な意見をを伺い、サービスの向上に活かしている。	行政関係者や地域の代表、家族や入居者の代表者が参加している。地域の情報から老人会に参加し、"ロコモ体操"を披露したり、包括から「グループホームに相談室があればよいのだが・・・」など参加者からの情報や意見がホーム運営に活かされている。まとめられた議事録は、参加できなかった家族へも発信し、役場担当者に口頭で現状を伝えたうえで提出している。	今後は代表家族ばかりではなく、より多くの意見収集に繋がるよう、全家族への参加案内を期待したい。また、会議へ毎回職員が参加する事で、司会や記録の役割を分担したり、情報を共有する事で会議が更に充実したものになると思われる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席される方ばかりでなく、会議の議事録、資料はその都度役場介護保険係に提出して、事業所の実情を報告、相談している。	運営推進会議に役所からの直接的な参加はないが、議事録や資料の提出によりホームの透明性を図り情報を共有している。また、研修や連絡事項はメールでやり取りし、良好な関係が継続されている。昨年の熊本地震では、社協やグループホーム関係者からボランティアや物資の協力支援を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修への参加に努め、ミーティングの場で他の職員へ、周知徹底を図っている。本人の身になって禁止用語を使用せず、抑制的な言葉使いにならないように注意している。玄関の施錠は、防犯の為、夜間使用し、日中は自由に出入りできる。	身体拘束や虐待については研修会やミーティングの中で周知徹底を図っている。言葉による拘束についても日頃から指導が行われている。職員は入居者に身体での異常（あざなど）を発見した場合、速やかに申し出るようにしており、これは家族との信頼関係があるからできるものと管理者は語っている。帰宅願望のある方に対しても、職員は「外に出ましょう！」「付き添います！」と、安心される言葉をかけ、一緒に寄り添いながら出かけている。遠くまで出かけられた時は、別の職員が車で迎えに行くなど、チームワークで対応している。センサーマット使用についても家族の了承を得ている。	外出傾向の方に、職員がホームの敷地内を安心されるまで行動を共にする光景が印象的であった。今後も継続した支援に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は研修に参加し、周知徹底を図っている。問題に感じるような時は、職員間でも注意しあえる職場環境つくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は研修に参加し、周知徹底を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分に理解できるように説明を行っている。もし分からないことがあれば、気軽に尋ねて頂けるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者家族と節度を持った信頼関係であるように努めている。「預けているから言いにくい」と言われたこともあり、家族の思いを知る為に、聞き役になるように努めている。「ご意見箱」は玄関にあるが、中身が入っていたことはない。	入居者の希望は日頃の会話の中で、食べたいものや行きたい場所など返答しやすい投げかけを行い確認している。また、家族には節度を持った対応により信頼関係を気づき、些細なことでも話してもらえるよう努力している。これまでアンケートを行ったこともあるが、記入が億劫になられることもあり、聞き取りを重視している。面会時や毎月、コメントをいれた広報誌の発送など、入居者の現状を伝えながら、ホームとの関係性を深められるようにしている。入居時には外部の相談窓口についても説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者として職員とのコミュニケーションを大切に思い、何かあれば皆で解決できるように意見を聞く姿勢である。定期的に個人面談を行うように努めている。	管理者は職員のコミュニケーションの重要性を語り、共に業務にあたりながら、気軽に相談や提案ができる環境に努めている。定期的な個人面談や何かあれば1対1で話を聞く場面を持っている。また、法人施設長とも連携を図りながら、意欲を持って働くことができる職場環境の整備にも努めている。食事の場面での話題作り、春の陽気に早速戸外での散歩やおやつタイムなどフットワークの良さは幅広い年齢層や持ち味を活かした支援となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価をして、個人のレベルに合った目標設定を自ら行い、意欲を持って働くことができるよう、労働環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修会や、外部研修への参加を促している。月1回の自事業所でのミーティング時は持ち回りで勉強会を開き、他人に伝えることで自身の成長に繋げている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は「上益城ブロック会」に世話人として参加しており、他の職員も参加の機会を設けている。同業者と交流することで、視野を広げサービスの質の向上に繋げていきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の情報からニーズを探り、思いを汲み取るようにしている。本人の不安や要望を、細かな動きから気付き信頼関係を構築するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階から家族とのコニュニケーションを大切にし、日々の活動や生活の様子を、報告、見て頂いたりして、信頼関係に努めている。それによって、家族が困っている事、不安、要望を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたとき、当事業所だけでなく、法人全体のサービスや、その他の介護サービスを視野に入れて、本人に合ったサービス内容となるように初回面談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	縁あって同じ時間を共有する訳で、介護する側、される側、お互いを尊重しながら、共に生きていく関係でありたい、と思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護される本人を中心に、家族、職員が協働して支援する体制つくりに努める。家族しかできないこと、職員ができる事、それぞれの立場を十分生かして、チーム化した支援体制つくりに努める。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	足手荒神さんの大祭は毎年2/15、地震後の今年も行われ、たくさんの方で賑わった。参拝に来られついでに馴染の方が立ち寄って下さる。参拝に出かけ出会ったら声かけて下さる。馴染の散髪屋に行く方は3名、地域へ散歩に努めている。	名所『足手荒神さん』と隣接しているという立地も入居者にとって馴染みで安心できる環境である。ホームは家族の訪問、友人・知人が神社の参拝や敷地内で開催されるサロンに参加された後気軽に立ち寄ってもらい、これまでの関係が途切れないように努めている。馴染みの歌番組を楽しんだり、行きつけの美容室に家族が連れて行かれる方、また、訪問理容も顔なじみの関係になっている。風呂上がりに好みの飲料（ポカリスエット）に氷を入れて水分補給される方、自販機で炭酸飲料を購入される方など、これまでの習慣やこだわりなども継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル座席の位置に気を配り、一人一人がストレスに感じず、気持ちよく過ごせるように対応している。利用者ができる事で、役割として全体に貢献して頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後退所された方、死亡等で終了となっても、必要時は伺うようにしている。いつ終了しても悔いが残らないように、今できる精一杯の事はするようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居されて時間が経つと本人のこだわりなどが見えてきたりする。本人の気持ちに沿った支援ができるように努めている。本当は思っていることと違うことを、必ず第一声は言う、とか。情報を共有してゆとりをもって対応するようにしている。	入居者の今の思いや意向を把握し、プランに繋げるようにしている。そのためにも職員は余裕を持って対応するよう管理者は指導している。普段の会話の中で思いなどを把握しているが、発語が少なくなってきた方も、発声や表情から察し職員間の共有に努めている。また、寄り添いの中で意向など聞き取る場合もあるが、横に座る事を好まれない方もあり、個々に応じた対応で把握するようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との会話の中から、これまでの暮らしぶりや習慣、好きなこと、嫌いなことなどの情報収集を行い、安心に繋げるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、できる事や本人の好きなことを把握して、ケアに反映している。例えば、土いじりが好きな方と一緒に花を植える、食事つくりが得意な方と、一緒に食事の準備をする等。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、又はその都度、皆でモニタリングを行い、状態把握をしている。家族面会時の情報や、HPへの相談、PTなどへの相談も必要に応じて行い、情報の共有に取り組み、介護計画に反映している。	モニタリングは定期的や必要に応じて開催している。本人や家族の意向を踏まえ、医師や法人の理学療法士・鍼灸師からの情報など関係者の意見も活かし現状に即したプランとなるようにしている。介護計画作成担当者は家族へ説明を行う際、本人のできることなどプラスの内容を先ずは伝えて、話を進め、要望等を確認しながら了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子や気付いたことは、ケース記録や申し送りノートに記入し情報の共有に努めている。日々の様子を見ながら、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本来の家族の要望、その時の本人の状態を考え合わせ法人内の事業所、又は他の事業所と協力してサービス提供に当たっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地震後、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱをされているお宅へ、呼ばれてお茶会に伺った。サロン活動に参加して、馴染の顔に笑顔が多く出るように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、家族の希望を確認しながら支援している。母体が医療機関ということで内科は協力HPの希望が多い。認知症専門医は6名。日頃の状態は母体ナースに気軽に相談できる。認知症についてはいつでもDrに相談でき、健康支援している。	家族の希望もあり現在は全員が法人の医療機関をかかりつけ医としている。専門医についても家族の希望を尊重しており、ホームや家族で受診を行っており、結果を共有している。また、薬の微調整なども細かに書面や面会時に報告している。歯科については現在1名の方が訪問での治療を受けておられる。職員はバイタルチェックや表情、食欲・排泄など日常の健康観察に努めており、何かあれば主治医や法人看護師とも連携が図れることは、家族や職員にとっても安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力HPのナースとは気軽に相談ができ、必要なアドバイスもあり早期の対応に努めている。認知症のBPSD対策には、Drとの連携でこまめな内服調整、職員の対応の仕方の見直し等で、意識の統一を図っている。入居者の安定に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院目的が治療する事、と入居者が理解、納得している場合、安心した治療ができるようにHP関係者と情報交換やその相談に努めている。しかしながら、認知症により治療困難、入院を希望していない場合は、その病状により、家族と本人の立場に立った医療支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた取り組みとして、利用者の状態を見ながら必要な場合には家族に来てもらい、事業所として何ができるかを十分に話し合い、今後の対応を検討するようにしている。	ホームの方針としては看取り支援までは行わないが、家族の希望があれば、口腔摂取や医療依存がないところまで等、ホームで出来うる支援で対応することとしている。ホームはご縁のあった入居者に日頃から最良の支援ができるよう努めており、状況を見ながら必要に応じて家族と話し合いの機会を持ち、今後の方向性を確認している。現在、特別養護老人ホームへの住み替えを希望されている方もおられる。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から急変時の対応を意識し、慌てず対応できるようにマニュアルを作っておく。勉強会にて実践力を身けるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加した避難訓練を年2回、行っている。消防署指導はその内1回。消防設備業者は毎回参加、近隣の方や地域の民生委員の協力も頂いている。熊本地震の際は、近隣の方にいち早く駆け付けて頂きマンツーマンで全員無事に避難ができ、感謝している。食料も備えている。	年2回、近隣者の参加協力を得ながら避難訓練を実施しており、9月の訓練では消防署の参加もありその後の評価では、緊急車両が入れる門の幅を検討して欲しいとの意見が出されている。火災は先ずは火を出さないことが1番であり、火のそばを離れないなど注意事項を共有している。食料備蓄については、アルファー米や水・カップ麺などを確保している。	今回の熊本地震では、ホームも本体施設へ避難し、入居者の安全が確保され近隣者の協力に感謝を語っている。職員も被災し勤務調整が困難であったが、夜勤職員の確保に努めたことなども聞き取りから確認された。今後も火災やあらゆる自然災害を想定して、有事に備えていただきたい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての勉強会を法人全体、各事業所に於いて行っている。地域内の職員も多いことから、節度を持ち、失礼のない言葉遣いや、誠実な態度に心懸けている。個人情報の漏えいやプライバシーの確保には気を付けている。	入居者の尊厳を大切にした対応や言葉使いなど、接遇に関しては講師による研修会や施設長による指導が行われている。入居者への呼称は基本的に苗字にさん付けで対応している。個人情報の使用については、本人・家族の了承を得ており、職員の守秘義務についても周知徹底が図られている。また、管理者は馴れ合いの言葉使いになっていないかなど、会議の中で注意喚起している。	入浴など勤務体制上完全な同性介助は困難なようであり、家族へも説明や希望を確認することも必要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを推察し、選べる雰囲気に持っていく。○か×、はいかいいえ等、自分の意思が反映できる雰囲気に持っていき、「自己決定」できるようにこだわっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事時間など、本人のペースを尊重してできないことを手伝うようにしている。職員は余裕の気持ちをもって対応し、家族、本人の希望に沿うようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に、本人に決めて頂く為に、本人が選択しやすいように提案している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備ができる方は、買い物～皮むき程度2,3名、包丁がうまく使え一緒に台所に入れる方は、1名となっている。介助の状態は、全介助2名、一部介助2名、あとの方は見守りとなっている。食事形態は、お粥、副菜の刻み等個別対応を行っている。	献立は法人で作られた物を基本に、ホームで入居者の希望なども取り入れた副菜をつけ、一汁二菜のメニューを専任者を中心に調理している。また、月の誕生会では手作りケーキを準備し、お祝いしている。食材は近くのスーパーや地域の物産館で新鮮な野菜の購入に入居者も一緒に出かけている。入居者が台所に立つことは困難になっているが、里芋の皮むき、つるし柿作りなどできることで食への関わりを持ってもらっている。	食事は入居者の身体状況に応じた形態で、見守りや介助を会話も楽しみながら進められている。今後は味や量の確認、入居者の思いを共有するためにも、1名でも同じ物を摂ることができないか検討されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事形態、摂取量、栄養バランスに気を付けて支援している。水分は好みを考え、偏りないように楽しんで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時はうがい、毎食後は口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全介助3名、その他の方も、何らかの形で一部介助で、手がかかり、排泄の支援をしている。内服状況やその方の態度や表情で、声掛けのタイミングを考え、失禁対策や経済的な負担軽減に努めている。	全介助や一部介助など個々の尊厳にも配慮しながら、日中はトレでの排泄を支援している。100歳を過ぎられた方も夜間は安眠や安全面を重視し、おむつであるが、昼間は布パンツで過ごされている。ポータブルトイレも使用しない時間帯はクロスをかけるなどプライバシーにも配慮した対応である。排泄用品の使い分けや組み合わせ、老人性の痒みなど皮膚疾患がある場合は、一時的に布パンツを使用するなど、個々に応じた支援は本人の心地よさや家族の負担軽減にも繋がっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、運動、水分、ヨーグルト、牛乳、食物繊維を多く摂ることで、下剤に頼らないように気を付けている。必要時は下剤使用しているが、その変化にはこまめに注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	熱めのお湯が好きな方、シャワーだけが好きな方清潔保持の為の方、初めは必ず拒否がある方、等、認知症がある方の特徴や好みを考えて対応している。ゆず湯、その他入浴剤を時々使い、楽しんで頂いている。	職員と1対1で週2～3回寛げる入浴支援に努めており、汚染時はその都度対応している。好みの湯温やシャワー浴、拒否の方へも無理強いしないなど、個々に応じた入浴が行われている。また、入浴剤の使用や季節湯として菖蒲の他、冬至には、庭先に多くの実を付ける柚子が使用されており、温もりも格別と思われる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠に繋げる為にはどうしたらいいか、日中の過ごし方、対応の仕方等、情報の共有に努めている。自宅で愛用していた寝具を持参してもらったり、本人の生活習慣を考えた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病気の理解と処方された内服を職員自身が勉強して、状態変化を観察、共有している。変化があり本人＋介護者が困ることがあれば、DrNsへ報告相談して改善に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生きる張り合いや楽しい日々が過ごせるように、食事の準備を手伝う方、食後の茶わんを拭く方、カーテンを閉める方等々、役割分担を決めている。ドライブや買い物に出かけることも楽しみの一つであり、気分転換を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気・体調を考えたうえで、積極的に外へ（外気浴・日光浴・園庭の草取り）出るように努めている。散歩を兼ねて近くのお店へ買い物へ出たり、又外出行事には家族へ声掛け、一緒に参加して頂いている。認知症を理解し、帰宅欲求ある方の自宅に行ったりしている。	季節や天候に応じ敷地内の散歩や散策を行っており、訪問当日も春の陽気と共に、職員とマンツーマンで散歩される姿があった。また、庭先に置かれたテーブルを囲んで賑やかに午後のお茶会が持たれていた。ホームは名所『足手荒神さん』と隣接しており、気軽に参拝できる事も外出の機会に繋がっている。地域物産館や近隣のスーパーへの食材購入にも可能な限り入居者と共に出かけている。正月の帰省や散歩に連れ出されるなど家族の協力を得た外出も行われている。	管理者はホームの取り組みだけではなく、家族の協力を得た外出支援の重要性を語っている。今後も入居者の笑顔を引き出す外出支援に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	玄関先に自動販売機があり、好きなコーラを買うことが楽しみな方がいる。買い物に行き好きなものを選ぶこと（おやつなど）もやって頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅欲求があり家族の声を聴き安心され落ち着いた方がいる。基本的に自由に電話ができる。年賀はがきが届く方がいる。こちらから書くことは「目が見えない」と面倒な様子である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には家族が持参された季節の花がある。昔本人が育てていた花との事で母親思いの息子氏が持参されている。それ以外に季節の飾り物、特有の臭いなどない様にアロマ等で不快なにおい対策をしている。ホールは南向きで日当たりもよく清掃に努めている。	ホーム内には庭先で咲いた花を家族が定期的に持参される他、職員も敷地内など身近な草花を努めて飾っており、心和む環境である。また、掃除や換気、アロマ剤の活用により臭気もないことは居心地の良さにもつながっている。入居者の中には一緒に掃除を手伝われる方もおられる。南向きのリビング食堂は、テーブルやソファが入居者の状況に応じて配置されており、足のむくみがちな方には手作りカバーを掛けた足置き台が準備されている。毎週楽しみにされているというテレビの、歌番組を見ながら拍手をされる入居者の表情から、日常の光景が窺われた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性を考えた座席の配置や二人掛けソファーや、ソファーベットで一休みすると淋しい思いにならない方の対策をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調とベッドだけが事業所のものであり、それ以外は持ち込んで頂いている。本人が安心して過ごして頂く為に使い慣れた寝具や、見慣れた家具は大事かと思っています。家族写真を貼ることで安心の様子である。	入居時にホームの設備品と持ち込みの品について説明を行っており、家族の協力によって家具や写真をはじめ、馴染みや必要な品が持ち込まれている。居室は自身の部屋とわかるよう入口に飾りつけや表札など職員が工夫を施している。採光のよい部屋からは庭先の樹木が眺められ季節を味わうことができ、穏やかに過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室の目印に目立つ造花を飾ったり、名前の表札で確認したり、それぞれである。混乱のない様に支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容